

# 令和8年度 学力向上推進プラン

青梅市立泉中学校

## I. ビジョン

誰一人孤立させない、生徒も教師も学び合う学校 ～心ある生徒の育成～

## II. 学力調査の結果から

### (1) 令和7年全国学力・学習状況調査力向上を図るための質問紙の結果①

質問項目	R7	R6	R5	R4	R7 都	R6 全国
平日、一日当たりどれくらいの時間、スマホ等でSNSや動画視聴などをしていますか。(1時間以上)		86.4		78.3		
自分には良いところがあると思いますか。 [青梅市学力向上5か年計画数値目標 R6 80%→80.4% R7 83%→87.5%]	90.9	81.5	78.8	70.4	86.7	86.2
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.7	84.5	86.2	77.3	91.1	92.2
将来の夢や目標を持っていますか。	60.6	66.0	60.2	70.5	66.3	67.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.3	97.1	98.3	93.1	95.2	95.9
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	76.2	62.1	78.0	56.5	72.8	73.2
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	97.2	97.1	95.9	90.4	95.6	96.6
学校に行くのは楽しいと思いますか。	82.6	78.6	88.6	72.2	86.5	86.1
平日、学校の授業以外に一日あたりどれくらい勉強しますか。(1時間以上) [2時間以上は全国 30.8% 都 38.5% 市 23.7% 泉中 27.5%]	55.9	62.2	74.8	66.0	69.0	61.6
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 [青梅市学力向上5か年計画数値目標 R6 78%→82.7% R7 80%→83.8%]	89.9	85.4	87.0	80.0	85.2	84.7

セルの凡例:  :平均1割以上,上  :平均より1割以上5割未満,下  :平均より5割以上,下

### (2) 令和7年全国学力・学習状況調査力向上を図るための質問紙の結果② (市・都・全国との比較)

本校が青梅市・東京都・全国の中間にいる	R7	R6	令和7年度グラフ
本校が東京都または全国より5ポイント以上高い	青梅市	青梅市	
本校が青梅市・東京都・全国より若干高い	東京都	東京都	
本校が青梅市・東京都・全国より若干低い	全国	全国	
本校が東京都または全国より5ポイント以上低い	プラス回答	プラス回答	
	(当てはまる・やや当てはまる)	(当てはまる・やや当てはまる)	
質問番号	質問事項		
(35)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	本校 89.9, 青梅市 83.8, 東京都 85.2, 全国 84.7	
(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	本校 80.7, 青梅市 72.8, 東京都 74.8, 全国 73.4	
(37)	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか	本校 80.8, 青梅市 71.9, 東京都 76.0, 全国 74.8	
(38)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	本校 86.3, 青梅市 85.0, 東京都 82.9, 全国 83.8	
(39)	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	本校 96.3, 青梅市 91.2, 東京都 92.1, 全国 91.9	

### (3) NRT (数研式 標準学力検査) の結果

全国の学力水準と比較して相対的に学力を把握する検査。各学年、

毎年同様の問題を解くことで推移をみる。

全国平均値を50として考えるテストである。理科を例にとると2023年に入学した学年が1年次では42.6だったが、2年次には44.0に3年次では44.6と毎年上がっている。他の教科も同様に向上している。

令和7年度NRT学校結果 累積資料

国語					社会					数学				
学年	2025	2024	2023	2022	学年	2025	2024	2023	2022	学年	2025	2024	2023	2022
1年	46.3	46.1	47.4	47.7	1年	44.2	43.6	43.7	44.4	1年	48.0	47.0	47.1	47.9
2年	48.4	46.5	49.3	50.7	2年	48.5	43.9	44.0	47.8	2年	49.7	47.1	46.7	49.8
3年	48.1	48.1	50.2	47.7	3年	44.8	46.1	49.2	47.8	3年	48.6	46.4	50.2	50.2
全体	47.6	46.9	49.0	49.1	全体	45.8	44.5	45.8	46.7	全体	48.8	46.9	48.1	49.3

  

理科					英語					教科総合				
学年	2025	2024	2023	2022	学年	2025	2024	2023	2022	学年	2025	2024	2023	2022
1年	45.6	44.6	42.6	44.1	1年	51.2	48.3	49.3	50.5	1年	47.1	46.0	46.0	46.9
2年	50.6	44.0	42.6	52.9	2年	49.9	49.3	49.3	51.7	2年	49.4	46.2	46.4	50.6
3年	44.6	46.0	52.0	49.2	3年	47.6	49.4	50.3	51.7	3年	46.6	47.2	50.4	49.5
全体	46.9	44.9	46.0	48.9	全体	49.5	49.0	49.7	51.4	全体	47.7	46.5	47.7	49.1

### Ⅲ 授業改善の方針及び対応策

#### 1 方針

青梅市「学力向上5か年計画」に従い、全教育活動を通して実行する。研究主題を『予測が難しい時代を生き抜くために必要な力の育成～「生徒支援」「学力康応」「働き方改革」・三位一体のアプローチ～』とし研究している。7年間積み上げてきた「探究と協同の学び」の創造をテーマに、一人も独りにしない学びおよび一人残らず学ぶ権利を保障していく学びの授業の追求を継続し、「習得」⇔「探求」⇔「発信」の流れを大切に、生徒がワクワクするような授業の工夫・改善を図る。学習の質を高めるために「他に考え方はないか」「本当にこれで良いか」「分かりやすいか」という3つの内言を常に意識させる。発信では泉中発表スタンダードを基にノー原稿で自分の言葉で相手に伝えることに重点を置く。これによって自己有用感をもたせ、心理的安全性を高めることで、安心して発信できる環境を整え、学習に対する意欲も向上させる。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用して「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

#### 2 対応策

##### (1) 各教科等の指導に関すること

###### ア 「習得」の徹底と「探究と協同の学び」の継続

「習得」の徹底と定着を図るために、「導入」の工夫を行う。また、これまで培ってきた協同学習を継続させた授業を展開する。「共有の課題」と「ジャンプの課題」を用意し、ペアや四人組を活用し、「つなぐ」ことを重視した授業を行う。

###### イ 単元指導計画の充実

授業観察時に単元指導計画の記載された単元と本時のねらいと四人組のねらい、ICT活用のねらいを提示させ、教員の単元指導計画への意識を高める。単元のねらいとする学力をつけるために、より主体的に学ぶ生徒の力を引き出せる授業を行わせる。

###### ウ 「授業指針」に基づく日常の実践

「授業指針」を念頭に入れながら、単元指導計画を作成させ、授業を展開する。

###### エ 授業研究による切磋琢磨

校内でお互いに授業を見合う研修を引き続き実施する。主体的に学習に取り組める生徒を育成するために、ICTを有効活用し、個別最適な学びを進める手段や方法を追究していく必要がある。

###### オ 物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力（「クリティカル・シンキング」）の育成

「3つの内言（他に考えはないか・分かりやすいか・本当にこれでよいか）」を提示し、授業の終わりに振り返りの時間をとる。

###### カ 授業観察および面接を活用した授業力向上の取組

「授業観察クイックシート」および授業指針を活用した年間1回の複数人での授業観察およびリフレクションと年間3回の授業観察および面接を通して、教師一人一人の課題解決に向けた指導・助言を行う。

##### (2) 学校教育全般に関すること

###### ア 言語活動の育成

毎朝の10分間読書をはじめとして、発表スタンダードに基づく、「ノー原稿」発表など、伝える力をつける。

###### イ 自己有用感の育成

生徒会活動やボランティア活動など生徒が活躍できる場を意図的に提供し、自己有用感を醸成し、集団の中で自信をもって自己表現ができる集団をつくる。